

埼玉ピースミュージアムで 実際に体験したことを生かして発信する

多摩市立連光寺小学校 6年 根本 賢吾

今回現地長崎には行けませんでした。埼玉ピースミュージアムを見学することができました。この見学を通して、戦争の悲さんさを伝えたいと思いこのテーマに決めました。

僕は派遣員になり、この見学を通して、戦争に対するイメージが変わりました。この事業に参加する前は、なんとなく怖いようなイメージをもっていたのですが、参加してからは、戦争は絶対おこしてはならないおそろしいものだとイメージが変わり、戦争についてさらに調べたいと思うようになりました。

次に、埼玉ピースミュージアムで学んだことを伝えたいと思います。このミュージアムは、戦争の悲惨さや平和の尊さを後世に残す為に作られた施設です。ここで学んだことを3つ伝えます。

1つ目は、「戦時中の疑似体験」です。実際に防空ごうに入り、空襲から逃れる体験ができました。防空壕に入ると、中は非常にせまくてきゅうくつでした。冷ぼうのない暑さの中でもがまんするのは苦しいと思いました。当時はこの状況が1、2時間続いていたことを考えると怖いです。

2つ目は、「戦時体制とくらし」のコーナーです。戦争中の人々の暮らし、例えば食事では、おかずがなく、主食がいもだけなど、当時のつらい様子が分かりました。また、展示のなかには原爆が落とされた時のガラスびんや水筒がとけてなくなった物がありました。僕はこれを見て原爆は決して存在してはならないと思いました。

3つ目は、「太平洋戦争への道」のコーナーです。ここでは太平洋戦争の開戦から終戦までの様子が映像で分かりやすく展示されていました。広島と長崎の原爆について説明されており、原爆が投下されたあとの町の様子を見て、事前活動の時に見た映画「この子を残して」を思い出しました。永井先生の子どものまこと君とおばあさんがお母さんの遺骨を探しに行った場面です。二人の気持ちを想像すると、色々な気持ちを通りこして何も考えられなかったのではないかと思います。

最後に、終戦から78年経ち、戦争を経験した人、体験を語って下さる方は年々へっています。過去のことを忘れるとまた戦争が起きてしまうと考えています。この地球に生きる人間の一人として、今回学んだことを友達やよく声をかけて下さる近所の方たち、サッカーを通して知り合った方など、色々な方に戦争が起きると、たくさんの人の命、そして大切なものがいっしょんにしてなくなってしまうということを伝えていきたいです。